

「ART BY STUDENTS 生徒作品ギャラリー」

光村図書ウェブサイト上で、全国の中学校・高等学校の生徒作品をご覧いただける「ART BY STUDENTS 生徒作品ギャラリー」を公開しています。作品画像と合わせて、その作者である生徒の言葉もご覧いただけます。

サイトトップ「おすすめコンテンツ」の「ART BY STUDENTS」のバナーをクリックすると、中学校のコンテンツへ進むことができます。授業の際の参考作品として、ぜひご活用ください。



トップページの
このバナーをクリック。



← こちらからもアクセスできます。



クリックすると...



各生徒作品に
「作者の言葉」を掲載。
作品に込めた思いや
制作意図を
ご覧いただけます。

多様な生徒作品を
「風景をあらわす」
「自己をあらわす」などの
カテゴリごとに分けて
ご紹介しています。



教授用資料 どうする？美術の授業

発行人 ■ 小泉 茂
発行所 ■ 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話：03-3493-2111(代表)
光村図書ウェブサイト ■
www.mitsumura-tosho.co.jp
印刷 ■ 梅田印刷株式会社
デザイン ■ Better Days
(大久保裕文+深山貴世)

どうする？美術の授業

鼎談
これからの
美術の授業とは？

山崎正明 北翔大学教授

田中真二郎 秋田県大仙市立西仙北中学校教諭

更科結希 北海道教育大学附属釧路中学校教諭



実践紹介
わたしの授業プラン

美術の授業 お悩み相談室
上野行一 元高知大学教授

教授用資料

この資料は、一般社団法人教科書協会が定めた
「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

美術の授業とは？

鼎談

撮影 鈴木俊介
協力 アーソナリティ田中 3331

田中真二郎

秋田県大仙市立西仙北中学校教諭

山崎正明

北翔大学教授・
元北海道千歳市立北斗中学校教諭

更科結希

北海道教育大学附属釧路中学校教諭

聞き手
光村図書出版 編集部

近年、若い先生が増え、「授業づくりに悩んでいる」、
「評価が難しい」などの声を多く聞くようになりました。
今回、魅力的な実践をされている田中先生と更科先生、
そしてお二人を昔からよく知る山崎先生をお招きし、
現場が抱える課題や、それを解決するために
教師が心がけるべきことなどを伺いました。



教師の世代交代が 始まっている？

——最近、先生方の世代交代が始ま
っているとよく耳にします。

山崎 地域によって状況はさまざま
ですが、全国的にその傾向は強まっ
ていると思います。

更科 私が住む北海道でも、新卒の
先生がかなり増えてきています。皆、
大学でしっかり学んできているので、
それなりにうまくスタートが切れて
いるようなのですが、生徒に身につ
けさせたい力が曖昧なまま授業をし
ていたり、どう評価したらよいかわ
からなかったり、いろいろと悩みを
抱えているようです。

山崎 それはどのようなところで感
じますか。

更科 例えば、実際に授業で制作し
た生徒作品を持ってきて、「更科先生、

これをどう評価したらよいですか」
と聞かれることがあります。

田中 「作品をつくらせたい」という
のが先にあって、題材のねらいが明
確ではないんでしょうね。

更科 そういう先生には、「ねらいと
評価は表裏一体ですよ」と話をする
ようにしているのですが……。

山崎 作品をつくらせることが目的
になってしまっているというのは、
もしかしたら若い先生だけの問題で
はないかもしれないですね。ベテラ
ンの先生も陥りがちな問題だと思っ
ています。以前、研究会でこんなこ
とがありました。私が自分の題材に
ついて発表したところ、「その材料は
どこで買うんですか」「どうやっ
たら作品を時間内に完成させられま
すか」という、技術指導に関する質
問ばかりが寄せられたんです。

田中 作品を仕上げることだけでな

く、「なぜその作品を生徒につくら
せるのか」ということに、もっと意
識を向けていかなければなりません。
山崎 それから、北海道で顕著に感
じるのですが、免許外の先生がとて
も多いんです。そういう先生は前任
の先生が決めた指導計画に沿って授
業をすることが多いようで、どうし
ても作品をつくることが学習の中心
になりやすい。

更科 私も免許外で、技術・家庭科
を教えたことがあるので、その苦勞
はよくわかります。指導に自信がな
いぶん、とりあえず生徒が静かに制
作に取り組んでくれればいいという
心境になってしまうんですね。

生徒を知り、 生徒の力を信じる

山崎 作品ありきの授業にしないた
めには、目の前にいる生徒たちに「ど
んな力をつけさせたいのか」という
ことをよく考える必要があります。
それには、まず生徒のことをよく知
ることが大事です。

更科 そうですね。生徒は年々、変
わっていきますから。私は毎年、年
間指導計画をつくる際に、生徒の実
態調査をします。自分が長年行って
きた題材は指導しやすいけれど、も
しかしたら今の生徒たちには合っ
ていないかもしれない。アンケートを
とるなどの実態調査をすると、そう
いうことに気づけます。

田中 生徒の実態を把握したうえで、
教師が題材のねらいをしっかりと設
定し、見通しをもって授業をすれば、
あとは生徒に委ねるぐらいの気持ち
でゆったりと構えていたらいいい思
います。技術指導ばかりに力を入れ
る先生は、生徒の表現力を信じてい
ないと思うんです。生徒の力を信じ
て、もっと生徒に任せてもいい。ガ

生徒の表現力を信じて、もつと任せたらいい。

田中



田中真二郎

たなか・しんじろう
秋田県生まれ。秋田県大仙市立西仙北中学校教諭。宮城教育大学大学院修了後、宮城県私立高校非常勤講師、秋田県内の公立中学校を経て、2013年4月より現職。教育課程研究指定校（国立教育政策研究所、平成26年～28年度指定）。2012年、博報賞受賞。近著に『中学校美術サポートBOOKS 造形的な見方・考え方を働かせる 中学校美術題材&授業プラン36』（明治図書 2019年）がある。



鼎談
これからの美術の授業とは？

田中先生の授業

「ふるさとをパッケージング!」(3年)

全8時間／デザインや工芸など

〔題材のねらい〕

地域の特産品の魅力が多くの人に伝わるようなパッケージデザインを考えることで、伝達の発想・構想の能力を高める。
また、地域の課題を、美術で解決する能力を養う。

〔授業の流れ〕



1 市販のパッケージを鑑賞する

気になった市販のパッケージを持ち寄って鑑賞。世の中にはさまざまなパッケージデザインがあることを知る。



2 鑑賞の観点を知る

「色合い」「形状」「ターゲットに合っているか」などの観点で、レーダーチャートを使って分析することを知る。



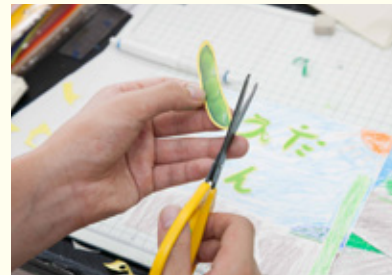
3 グループでパッケージを鑑賞する

よい点や課題に思う点などを話し合う。O君(写真左)は、持ち運びしやすい紙袋のパッケージに心ひかれた。



4 作品の構想を練る

自分だったらどんなデザインにしたいか考え、パッケージのアイデアをまとめる。O君は、地元の名産である枝豆を使ったお菓子のパッケージを考えることに。



5 色や形を工夫して表現する

ターゲットを考えながら、色や形を工夫する。O君は、売り場で目を引くように、枝豆の写真を切り抜いてアクセントにすることにした。



O君の作品
えだ豆せんべい

小学生を対象とし、「小学生の絵日記」風の素朴なデザインに仕上げた。

いよ」などと批評しながら、生徒たちが盛り上がっているのが印象的でした。

田中 そこですかさず「じゃあ、こういうデザインなら買いたくなるだろう?」と投げかけるんです。すると、生徒は課題意識をもって、主体的にデザインを考えようとします。全8時間の題材でしたが、導入で生徒たちをひきつけられたおかげで、最後まで集中して取り組ませることができたと思います。

——更科先生の1年生の風景画(P.4)の授業も取材しましたが、やはり導入が魅力的でした。

更科 風景画は、よく行われている題材ですが、なかなか目的意識をもたせにくいように感じていました。

1年生に、「校舎を描きなさい」と投げかけても、入学したばかりの子たちなので、なかなか気持ちが入らないと思うんです。だから、「学校の中で、これからの3年間で大切にしたい『宝場所』を探そう」と投げかけました。

山崎 「宝場所」という言葉がいいですね。言葉を与えることで、何気ない風景を見つめ直すきっかけになります。

田中 僕も1年生で風景画の授業を行っていますが、やはりその風景と自分との関係を絵にあらわすことが大事なのかなと思います。ただの写生になってしまうと、写実的に「うまく」描かなければならないと苦痛に感じる生徒も多いと思います。

——更科先生の風景画の授業では、通学路を「これから自分が進んでいく道としてあらわしたい」という生徒(P.4のIさん)がいましたね。

更科 生徒に「こういうふうにあらわしたい」という思いがあってはじめて、教師は「じゃあ、こう表現し

チガチに技術指導をすると、生徒は表現することに対して畏縮してしまうと思うんです。

山崎 小学校では図画工作が好きだった子が、中学校で美術を嫌いになってしまう理由はそこにあるのではないのでしょうか。中学生になったら「うまく」作品をつくらなければならぬと思っている生徒はとて多い。まずは先生が変わらないといけないですね。

導入が授業を決める

田中 授業の導入で生徒をひきつけられれば、彼らは主体的にどんどんつくろうとします。だから、僕は導入にすごく力を入れます。

山崎 導入で、生徒のハートに火をつける!これが大事ですね。

田中 生徒はおもしろいと思えば、夢中で表現方法を試したり、作品や作家のことを調べたりします。それが中学生のすごいところ。その力を信じてほしいと思います。

更科 導入はとても大事ですね。私は導入で、生徒たちに「あ、こんな世界もあるんだ」と気づかせたい。新たな気づきと、今まで自分が経験してきたこととを結びつけて、考えさせたいと思っています。

——編集部では以前、田中先生の「ふるさとをパッケージング!」(P.3)の授業を取材しました。生徒たちが導入でとても盛り上がっていましたね。

田中 この題材ではまず、「商品のパッケージは目的があってデザインされている」ことに気づかせたいと思いました。なので、最初に地元のお土産のパッケージを鑑賞させました。あえて、あまりいいデザインじゃないものも取り上げて(笑)。

——「ダサイなあ」「若い人は買わな

授業の導入で、生徒のハートに火をつける!これがとても大事。

山崎



山崎正明

やまざき・まさあき
北海道生まれ。北翔大学教授、元千歳市立北斗中学校教諭。北海道教育大学札幌校を卒業後、埼玉県で講師を務め、その後、北海道の公立中学校教諭に。全国造形教育連盟事務局。自身のブログ「美術と自然と人と」で、授業実践や生徒作品などを紹介している。光村図書中学校「美術」教科書の著作者でもある。近著に『中学校 美術の授業がもっとわかる50の技』（明治図書 2019年）がある。

生徒に思いがあつてはじめて、教師は具体的な指導ができる。



更科結希

さらしな・ゆき
北海道生まれ。北海道教育大学附属釧路中学校教諭。北海道教育大学卒業後、北海道釧路町の公立中学校教諭を経て、2012年4月より現職。北海道教育大学大学院修了。現在、研究主題「創造活動の価値を見出すことができる児童・生徒の育成」の実現に向けて、日々、授業研究を行っている。

鼎談
これからの美術の授業とは？



更科先生の授業

「自分の宝場所」(1年)

全8時間／絵や彫刻など

〔題材のねらい〕

身近な風景から自分が宝にしたい場所を選び、そこから受けた印象や思いをもとに主題を生み出し、工夫して表現する。

〔授業の流れ〕



1 自分の「宝場所」を探す

デジタルカメラで「宝場所」の写真を撮り、その風景を選んだ理由を文章でノートにまとめる。



3 構図を決め、下絵を描く

1さん(写真上)は通学路を「これから自分が進んでいく道」として表現することに。道が続いていく感じをあらわすため、画面を縦にすることにした。



4 主題を考えて着彩する

自分があらわしたいことを考えながら着彩する。1さんは遠近感が出るよう、手前の色を重ねて濃くした。



2 風景をどう切り取るか考える

紙の見取り枠を使い、選んだ風景をどう切り取れば、自分の思いをあらわせるかを考える。



風景を見ながら、奥行きを出すために、目線を低くして、風景を何度も確認する1さん。



1さんの作品
ずっと

「自分が進んでいく道」として、道が長く続いていくように表現した。

てはどうだろう」という具体的な指導ができると思うんです。Iさんの場合は、自分が進んでいく道として、「ずっと続く感じ」をあらわしたいと話していたので、奥行きのある構図にすることや、手前の色を濃く塗って遠近感を出すことなどを指導しました。

山崎 先生の「『宝場所』を探そう」という投げかけがあったから、Iさんは何気なく通っていた通学路を「これから自分が進んでいく道としてあらわそう」と思うことができた。主題生成のために、導入ってすごく大事ですね。田中先生や更科先生の話を知ると、改めてそう感じます。

教科書に期待すること

——最後に、先生方が教科書に期待することを教えてください。

山崎 新任の先生が増えている現状をふまえると、「授業が見える」教科書であってほしいと思います。大昔の教科書は、作品がずらっと掲載されている図録のような内容のものが多かった。今はずいぶんと授業を意識してつくられています。もっと踏み込んでもよいと思っています。

田中 作品ありきの授業にしないためにも、完成作品だけでなく、制作の過程をもっと見せてもよいのかもかもしれませんね。

更科 私もそう思います。制作の過程が丁寧に紹介されていたら、生徒は「自分だったらどうつくるだろうか」と考えますし、経験の浅い先生にとっては、授業づくりのヒントになります。

山崎 それから、発想を広げる手立てが詳しく紹介されているといいですね。言葉から発想する生徒もいるし、素材をさわりながら発想する生徒もいる。そういった多様な発想方



法が各題材に示されているとよいと思います。

田中 生徒がどのように発想し、主題を生み出していくのか。その過程がわかるといいですね。それから、僕は光村図書の教科書に掲載されている鑑賞図版がとても好きなので、ひきつづき鑑賞にも力を入れてほしいです。

山崎 私は平成24年度版の教科書から編集に関わっているのですが、当時、教科書を大刷新するにあたり、鑑賞教育についてずいぶんリサーチを重ねました。そこから、「風神雷神ふうじんらいじんを重ねました。そこから、「風神雷神ふうじんらいじん図屏風ずびょうぶ」や「ゲルニカ」を両観音開きでダイナミックに見せるというア

イデアが生まれたんです。新しい教科書でも、鑑賞の挑戦は続けていきたいですね。それから、教科書にQRコードを掲載して、ウェブコンテンツと連動させるということが、新しい小学校の教科書から行われています。動画や音声など、紙ではできない見せ方ができるので、新しい教科書がどんなウェブコンテンツと連動するのか、楽しみにしていただきたいです。

——ありがとうございました。さらに使いやすい教科書を目ざして、令和3(2021)年度用の新版教科書を編集いたしました。新しい教科書に、ぜひご期待ください。

わたしの授業プラン

さまざまな実践をされている田中先生と更科先生に、
とっておきの授業プランをご紹介します。

お気に入りのものを描こう(1年) 全3時間／絵や彫刻など

【題材のねらい】

1 年の最初に設定している題材です。とにかくこの題材では、「描くことって楽しい!」と感じてほしい。そのために、まず美術室にある「なんかいいなあ」と思うものを、サラッと描かせます。次に、お気に入りのものを描かせるのですが、思い入れのあるものは描き方がやはり変わってくるんです。例えばグローブを描いたとしても、生徒によって表現のしかたは全く違います。この題材では、「ものの見方や感じ方は人それぞれ違うんだ」ということにも気づかせたいなと思っています。



【準備するもの】 教師:画用紙(B5判程度)、水彩絵の具、パステル、色鉛筆 / 生徒:鉛筆、消しゴム

時	学習活動
1	導入 ●身近なものを描いたさまざまな作品を鑑賞し、作者が身の回りにあるもののどのような特徴をあらわそうとしているかを考える。 ●色鉛筆、パステル、水彩絵の具などの描画材の特徴を知る。 美術室にあるものを描く ●美術室にあるものの特徴を捉えて、感じ取ったことをどう表現するか考え、描画材を選んで描く。
2・3	お気に入りのものを描く ●自分のお気に入りのものをどのようにあらわしたいか考え、描画材を工夫して描く。 鑑賞する ●友達の作品を鑑賞して表現の工夫について話し合い、人によってあらわし方はさまざまであることを知る。

【生徒作品】



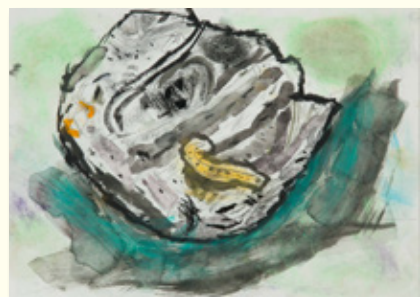
木片 紙、鉛筆

校庭で拾った木片に心ひかれたK君。おじいちゃんみたいな渋さをあらわしたいと思い、あえて鉛筆だけで仕上げた。



タップシューズ 紙、鉛筆、水彩、パステル

タップダンスを習っているSさん。踊っているときの楽しい気持ちをあらわすため、背景に明るい色のパステルを使った。



グローブ 紙、鉛筆、水彩

野球部のS君。練習の汗がいっぱい染みたグローブを、水彩絵の具で水を多めにしてダイナミックに描いた。



メッセージを持ち歩こう(2年) 全6時間／デザインや工芸など



【題材のねらい】

デザインが社会の中で果たす役割について考えさせる題材です。まず、身の回りのサインやマークなどを鑑賞し、メッセージを多くの人に伝えるために、形や色彩にどのような工夫がされているかを話し合わせます。次に、社会問題についてどんなメッセージを伝えたいかを考え、デザインの構想を練らせます。トートバッグにシルクスクリーンで絵柄を刷り、自分が考えたデザインを持ち運ぶ楽しみも味わわせることができます。

【準備するもの】 教師:B5判の用紙、シルクスクリーンの道具、無地のバッグ、色鉛筆 / 生徒:鉛筆、消しゴム

時	学習活動
1	導入・発想する ●社会問題をテーマにしたロゴデザインを鑑賞し、作者が伝えたいメッセージを感じ取る。 ●社会問題の中から、自分がどのようなメッセージを伝えたいかを考える。 ●ロゴマークとロゴタイプの特徴を知る。
2	構想と版づくり ●ロゴデザインの形や色彩を学び、色の組み合わせについて考える。 ●シルクスクリーン印刷のために、版下 ^{はんした} をつくる。
3・5	印刷する ●版下を感光し、版をつくる。 ●エコバッグに、1～2版の印刷をする。
6	鑑賞する ●完成した作品から友達のメッセージを知り、その意図をあらわすための形や色彩の工夫について鑑賞する。

【生徒作品】



一本の地球

一本の木を地球に見立ててデザインを考えた。木は切れ込みが入っていたり、葉の右部分が枯れ葉になったりしており、「自然破壊によって、地球に危機が迫っている」ということを伝えている。



緑を大切に

緑を大切にしようというメッセージを、地球にハート形の水を手で注いでいるデザインであらわした。また、環境問題から目を背けないでほしいという意味を込めて「LOOK」という言葉を入れた。

Visual Illusions～学校を異空間に～（3年）全8時間／絵や彫刻など

〔題材のねらい〕

生 徒たちに「こんな世界がつかれるんだ!」という体験をさせたいと思い、計画した題材です。学校の中に、目の錯覚を利用したトリックアートの作品をつくらせます。仲間と共同制作する楽しみも味わってもらいたいので、3人1グループにします。3人だと全員が主体的に制作に加わるができるので、この人数がベストだと考えています。



〔準備するもの〕 教師:ロール紙、コンテ、練りゴム / 生徒:軍手、消しゴム

時	学習活動
1	導入・発想する ●錯覚の世界を描いた作品を鑑賞し、おもしろさや意外性を生み出す表現の工夫を感じ取る。 ●「学校の中に異空間をつくる」というテーマを知り、どのような空間が考えられるかグループで話し合う。
2	構想を練る ●発想や構想を広げ、グループで協働しながらアイデアスケッチをして構想を練る。
3 ～ 7	制作する ●描く視点と、錯覚を起こす視点の違いについて理解し、大まかな構成を紙面に表現する。 ●他者が見る視点に立ち、形や色の調整を行いながら、錯覚の効果を得られるように描く。 ●人物と校舎、仕掛けを含め、錯覚に感じられるポイントを見つけて撮影する。
8	まとめ・鑑賞する ●錯視の利用が美術文化の中に存在し続けた理由と、現代社会で錯視がどう扱われているかまとめる。 ●他のグループが制作した異空間を鑑賞し、人と校舎と仕掛けの関係性を知る。

〔生徒作品〕



校内の写真のコピーに、アイデアスケッチをする。このグループは、「廊下に裂け目ができて池が現れたらおもしろそう」と考えた。

角度による見え方を確認しながら、友達と協力して、ロール紙にコンテで絵柄を描いていく。



学校の中の静けさ 紙、コンテ

ある角度から見ると、廊下に水たまりが出現したように見える。作品がいちばん映える角度を探して、写真を撮った。

15歳の存在証明（3年）全8時間／絵や彫刻など



〔題材のねらい〕

小 学校の図画工作と中学校の美術で学んできたことの集大成として位置づけている題材です。「15歳の今しかできない表現は何か」を考えて制作させたいですね。これまで学んできたことをフルに使って、自由に作品を制作してほしいと思っています。そのために、美術室にはさまざまな材料や描画材を用意しておき、生徒たちがいつでも手に取れるようにしています。

〔準備するもの〕 教師:さまざまな材料や描画材をあらかじめ美術室に用意しておく / 生徒:自分の表現に必要なものを各自持参する

時	学習活動
1	導入 ●現代美術やアール・ブリュットの作品を鑑賞し、「人はなぜ表現するのか」を考え、レポートにまとめる。 ●世界各国の中学生が描いた作品を鑑賞し、今の自分をどう表現するか考える。
2	発想する ●思い出のものから発想を広げたり、マッピングを使って今の自分を分析したりして、作品の構想を練る。
3 ～ 7	制作する ●材料や描画材を工夫し、それぞれの表現方法で制作する。 ●1時間ごとに学習課題を設定し、スケッチブックに記録する。
8	鑑賞する ●自分の制作意図を発表する。また、友達がどのような思いで制作したのかも知る。 ●卒業制作展に展示するため、制作意図などを作品解説としてまとめる。

〔生徒作品〕



日々

紙、プリント、水彩
中学生活で学んだことをあらわすため、さまざまな教科のプリントをちぎってコラージュした。吹奏楽部のコンクールで演奏した楽譜のコピーをちぎって、トランペットの形に。



大好きなこと

スチレンボード、紙、粘土、アクリル

中学3年間を、立体であらわした。1年はピアノ、2年は釣り、3年は勉強……と、数字を入れて、その学年でいちばん楽しんだことや、打ち込んだことを表現した。

心の扉

厚紙、紙粘土、ライト、針金

いつも臆病な自分を変えたいと、あえて自分が怖いと思っているお化けをモチーフにした。お化けの心の扉からは、自分の好きなものが飛び出すようにして、普段は隠している自分の本当の気持ちがあふれ出てきているところを表現した。

美術の授業 お悩み相談室

授業のお悩み、一人で抱えこんではいませんか？
美術教育のエキスパート、上野先生が温かく受け止めます。



回答者
上野行一

うえの・こういち
「美術による学び研究会」会長。
高知大学大学院教育学研究科教授、帝京科学大学教授を務める。
『私の中の自由な美術』、『風神雷神はなぜ笑っているのか』（光村図書）など著書多数。
NHK高校講座「芸術（美術I）」を監修。
光村図書中学校「美術」教科書の著作者でもある。

イラスト 北村人



新しい学習指導要領で 大事なことは？

もうすぐ新しい学習指導要領が実施されます。
美術教師が心がけるべきことや、大事な点を教えてください。



A 「どのように学ぶか」 「どのような力が身についたか」 を大事に。

新しい学習指導要領では、特に学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を学ぶか」という知識に加えて「どのように学ぶか」や「どのような力が身についたか」という学びの質や深まりを重視する方向に舵が切り替えられました。それに伴い、三つの資質・能力（①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等）の育成、主体的・対話的で深い学びによる授業改善や、教科横断的な視点は、全教科に通じる点です。

美術の先生方に心がけていただきたいことを、あえて一言で示すと、「表現と鑑賞の活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」です。

今回の改訂では、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考するのか」という、見方・考え方が各教科で定められました。美術科の特質に応じた造形的な見方・考え方は、表現や鑑賞の活動を通して、よさ

や美しさを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ物事を造形的な視点（形や色彩などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、造形的な特徴からイメージを捉えたりする視点）で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすものです。

その力を育成するための、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の視点を具体的に示します。

●主体的な学びを促すために

興味や関心をもたせるための工夫や、生徒が見通しをもって題材に取り組めるよう、ノートやスケッチブックに、アイデアスケッチや学習記録をまとめて蓄積しておくこと（ポートフォリオ）などが考えられます。

●対話的な学びを促すために

個人で考える場と、グループで意見交換し、考えを広げ深める場を、意図的に設定しましょう。

●深い学びを促すために

造形的な見方・考え方を働かせて、造形的な視点から問題を発見したり、自分としての意味や価値をつくりだしたり、表現と鑑賞の資質・能力を相互に関連させながら学習する授業を組み立てましょう。



発想や構想の力を育てるには？

発想や構想の力を育てることが求められていますが、具体的にどのような指導をしたらよいのでしょうか。



発想を広げる方法を 取り入れたり、話し合い活動を 工夫したりしましょう。

先生方は発想や構想の力を育てるために、どのような指導をされているのでしょうか。参考作品を見せる、資料を調べさせる等の指導をされることが多いかもしれませんが、それだけでは十分とはいえません。また、「よく考えましょう」という指示をしてしまいがちですが、それではなかなか生徒の思考は活性化しませんので、発問も含めた学習形態の改善が必要ですね。

生徒の発想を促すには、思考を促すための活動の手順を示すことが大切です。例えば、新しい学習指導要領の

総合的な学習の時間編で示されている「考えるための技法」を活用することはその一つです。「考えるための技法」は、教科・科目を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力として位置づけられています。

例えば、マッピングはすでに活用されている先生も多いと思いますが、他にもベン図、コンセプトマップなど、発想を広げるさまざまな方法があるので、積極的に授業に取り入れてみましょう。

また、グループでの話し合い活動もひと工夫したいものです。付箋を活用したり、必要に応じてグループのメンバーを入れ替えたりすることで、生徒たちの見方や考えを深めることができ、発想や構想の力を育てることにつながります。



どう評価したらよいか迷います。

生徒の完成作品だけを見て評価しがちです。
どう評価するのがよいのでしょうか。



完成作品だけでなく、 生徒の活動を通した学びを 見る姿勢が大切です。

作品から生徒の学習状況を評価することは大切なことですが、生徒の学習過程と作品を切り離し、作品の出来ばえだけで評価しないよう、気をつけたいですね。

作品の評価を適正に行うには、学習の実施状況を目標に照らした観点ごとの評価規準を設定し、それに基づいて評価することが求められます。

作品以外から生徒の学習状況を把握し評価することは、作品の評価と同じくらい大切です。どのような方法で、

生徒の学習状況を見取ったらよいのか、具体例を挙げてみましょう。

●ワークシートに学習の振り返りを書かせます。漠然と感想を尋ねるのではなく、〔共通事項〕に関連づけて形や色、イメージなどを観点にした質問を用意しましょう。

●作品を展示してお互いの作品を鑑賞しあい、よいと思った所を付箋に書いて、貼らせます。

●小グループで互いに作品のプレゼンテーションをし、結果をまとめさせます。

●生徒が普段から関心をもっていることのメモやスケッチ、課題のアイデアスケッチ、制作の振り返り、制作途中の写真などをノートやスケッチブックに蓄積させます。



Q 「表現」と「鑑賞」を関連づける、とは？

「表現」と「鑑賞」の学習を関連づけることが求められていますが、どのように授業を組み立てたらよいのでしょうか。

A 表現の学習で考えることと共通する視点で、鑑賞の学習を組み立てましょう。

例えば、ポスターを制作させるときに、コンクール入選作品や有名なポスターを鑑賞させ、そこからヒントを得て生徒がアイデアを練り、制作する……というような手順は、あまり好ましくありません。なぜなら、ポスター制作のための参考として作品を見せるだけでは、鑑賞が表現を補助する手段として終わってしまうからです。

表現と鑑賞を関連づける指導には、思考力・判断力・表現力等を育成するねらいがあり、「関連づける」とい

うことは、表現の活動における発想や構想の資質・能力と、鑑賞の活動における鑑賞の資質・能力が相互に関連して働くようにすることを意味します。

そのためには、「ポスターを制作すること」が学習の中心にならないように気をつけましょう。発想や構想と、鑑賞の双方の学習に重なることを主ねらいにすることが大事です。

例えば「多くの人たちに、効果的にメッセージを伝えるデザインの工夫」を、ポスターの鑑賞を通して学び、それを表現の発想や構想に生かして制作し、完成したポスターをその視点から鑑賞する……というような授業の組み立てを行うことが大事なのです。



Q 鑑賞の授業に自信がもてない……

鑑賞の授業に自信がもてません。作品選びや、授業の進め方について教えてください。

A 自分と作品との関わりを深めて意味をつくりだしている生徒の姿を大切に。

美術科において、鑑賞もまた創造的な活動です。作品の描写や手法などの造形的な特徴、様式や作者に関する美術史的な知識を説明し、単に暗記させるような授業にならないよう、気をつけたいものですね。鑑賞で大切なことは「自分との関係で見る」ということです。

鑑賞の授業でまず考えたいことは、生徒が形や色彩などの造形要素の観察をもとに感じたことや、作品についての考えなどを言葉にして整理し、根拠を明らかにして自分の意見とする場を設定することです。ここでは生徒一人一人の作品の見方や感じ方を大切にしましょう。そ

の後、個々の意見を交流する対話を通して、作品を多面的に捉え多様な視点から作品の意味をつくり出す場を設定することです。

取り上げる作品は、授業の目標に適したものを選びます。例えば、授業の目標が、生徒の美術作品を見る経験を豊かにし、想像力や考える力を高め感性を研ぎ澄ますことなどに焦点化されている場合には、対話を活発にする物語性の強い作品を選ぶとよいでしょう。教科書に掲載されている作品は、おおむね鑑賞に適しています。

自分の見方や感じ方を大切にしながら作者の心情や表現の意図と工夫について考えたり、自分ならどう表現するかを考えたりしながら、自分と作品との関わりを深めて意味をつくりだしていく生徒の姿を大切にしつつ、授業を進めていきましょう。



Q 授業時間が足りない！

授業時間が足りず、制作が中途半端になってしまいます。生徒が達成感を得られるような制作をさせたいのですが……。

A 制作が中途半端になる原因に応じて、授業計画と学習形態を改善しましょう。

特に表現の授業では、制作の準備や後片づけをしなければなりませんので、50分があつという間に感じられるかもしれません。

もし制作に時間がかかるのであれば、作品サイズを小さくするとか、扱いやすい材料・用具に替えるとか、もっと短時間で終わるような工夫ができるかもしれません。

また、美術の授業では、一つの題材に集中的に時間をかけるよりも、なるべく多くの題材から学ばせることが

大事です。さまざまな表現形式や表現方法、材料や用具の扱いを経験することは美術を広く捉えることにつながり、また自分にとって相性のいい表現の仕方を見つけることにもつながります。一つの題材にいくつもの学習内容を組み込むと時間もかかりますが、題材で育成する資質・能力を絞り込むことで指導のスリム化を図れます。

発想や構想に時間がかかる場合は、発想を広げるための思考ツールや、ポートフォリオを活用しましょう。ポートフォリオに記述した思いや考えを読み返すことで、自分があらわしたいことや主題に関わる思索の経過を振り返ることができ、生徒が見通しをもって取り組むことができます。結果として時間は短縮されるでしょう。



Q 完成した生徒作品、どう展示したらよい？

生徒がつくった作品を校内に展示する際、どのようなことを心がけるとよいのでしょうか。

A 展示は学習活動の一環です。目的を明確にし、効果的な方法や場所で実施しましょう。

学校で行う展示は教育の一環なので、コンクールの入選作品展のようにならないよう気をつけましょう。生徒相互の鑑賞の活動が促され、生徒が学習を振り返り、まとめる場として設定することが大切です。

学習の一環ですから全員の作品を展示するのが基本です。ただし、自信のない生徒がいる場合はよく話を聞き、無理に展示することは避けます（そういう生徒が出ないような授業を目指したいものです）。

作品は詰めすぎずゆったりと展示すると一点一点に目がいくようになり、学び合いも生まれます。場所が狭け

れば入れ替え制にしましょう。

作品だけではなく、作者の言葉を添えることも大切です。作品に込めた思いや表現したかったこと、学習の中での自分の考えの変容や学んだこと等があれば、見る人は作品の出来ばえだけで評価するのではなく、学習活動の全体から作品の価値を見出すことができるでしょう。授業の目的や制作過程の写真や動画を一緒に展示すれば、さらに効果的です。

公民館や図書館等の学校外の場所で展示する場合は、作者の言葉に加え、授業の目的に沿った「作品の見方」を掲示し、作品に込めた生徒の思いや価値観等が見えてくるようにすることも大切です。校外展が作品を通して生徒を理解する場となり、学校と地域を結びきっかけともなります。